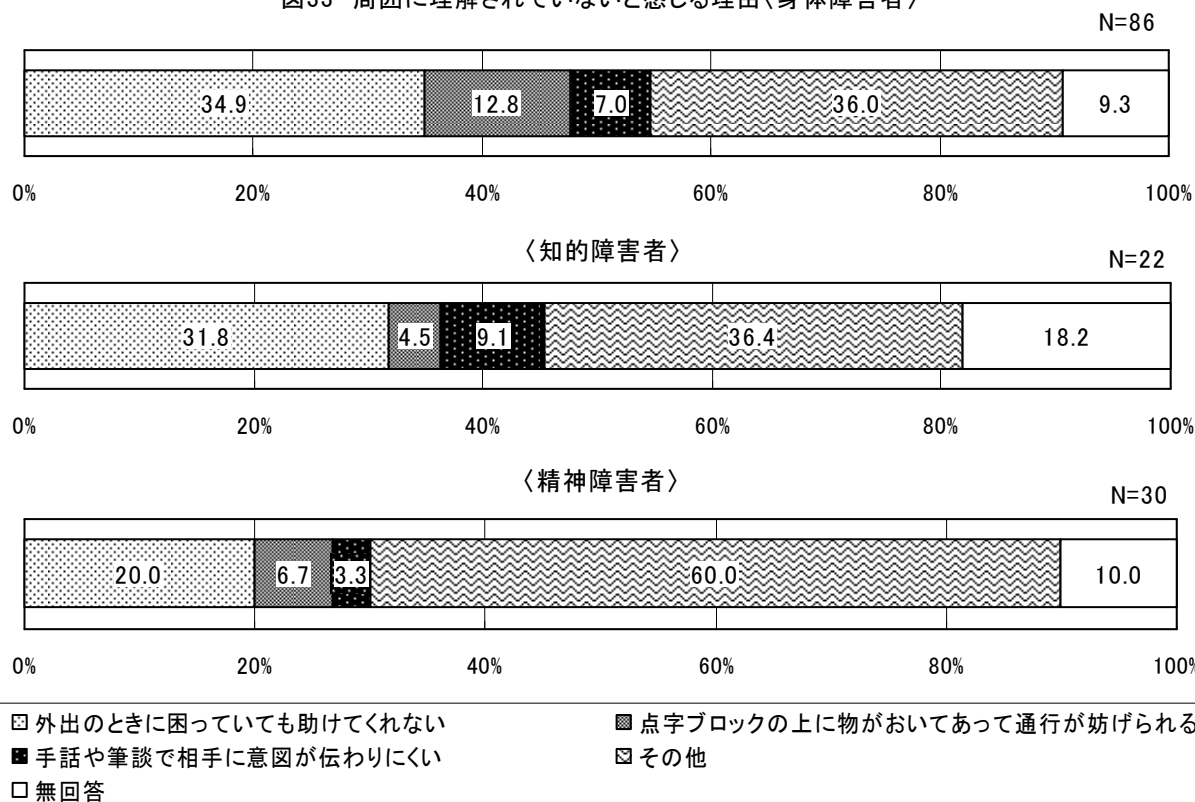


(2) 「理解されていない」と感じる理由

図33 周囲に理解されていないと感じる理由〈身体障害者〉



身体障害者は、「外出のときに困っていても助けてくれない」が34.9%、次に「点字ブロックの上に物が置いてあって通行が妨げられる」が12.8%となっており、「その他」として、「どのような障害を持つか外見ではわからない」や「駐車場が健康な人に使用される」という意見があった。

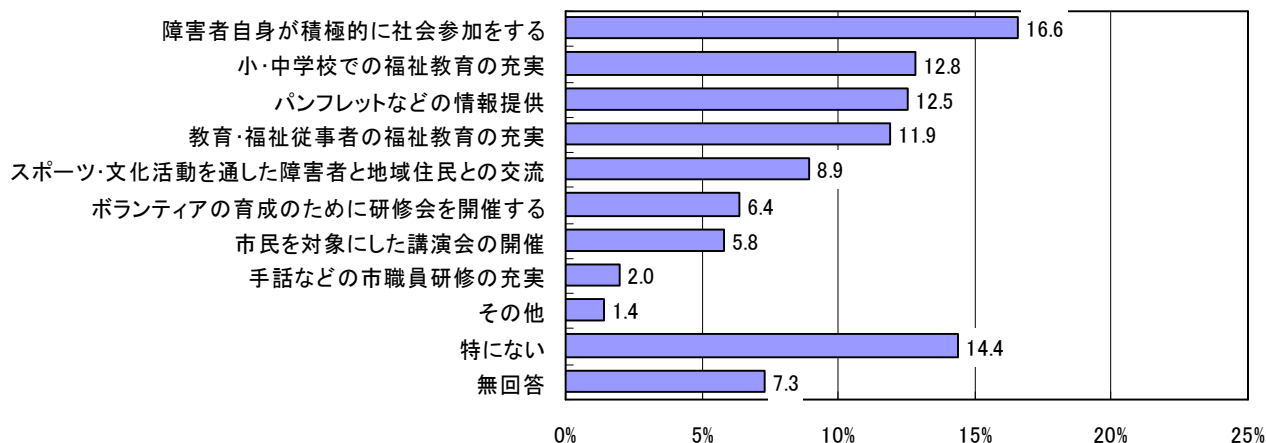
知的障害者は、「外出のときに困っていても助けてくれない」が31.8%、次に「手話や筆談で相手に意図が伝わりにくい」が9.1%となっており、「その他」として、「障害者に対する偏見を感じる」や「障害への理解が低い」という意見があった。

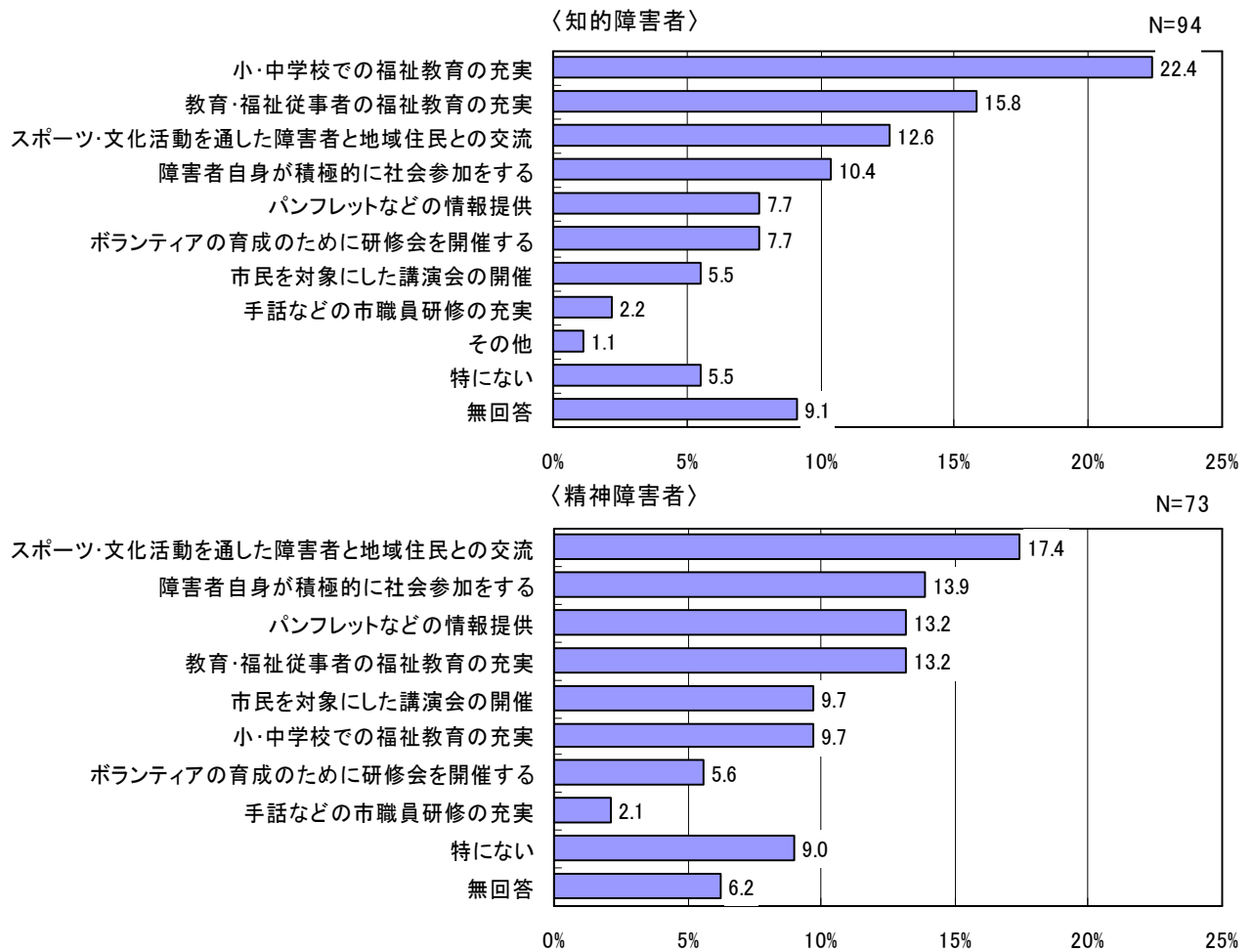
精神障害者は、「外出のときに困っていても助けてくれない」が20.0%の他は、「その他」の意見が6割を占めており、「外見でわからず、周囲の人に理解してもらえない」や「障害があることを知られていないから」という意見が多かった。

(3) 障害者への理解を深める取組みとして

図34 障害者に対する理解を深めるために、力を入れるべきこと〈身体障害者〉

N=376





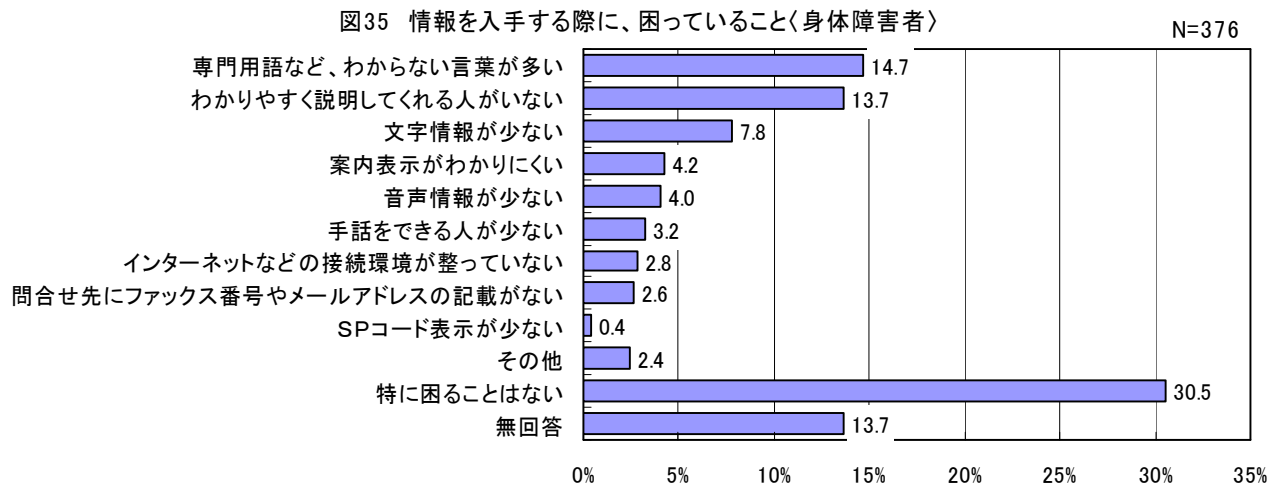
身体障害者は、「障害者自身が積極的に社会参加をする」が16.6%、「小・中学校での福祉教育の充実」が12.8%、「パンフレット等の情報提供」が12.5%となっている。

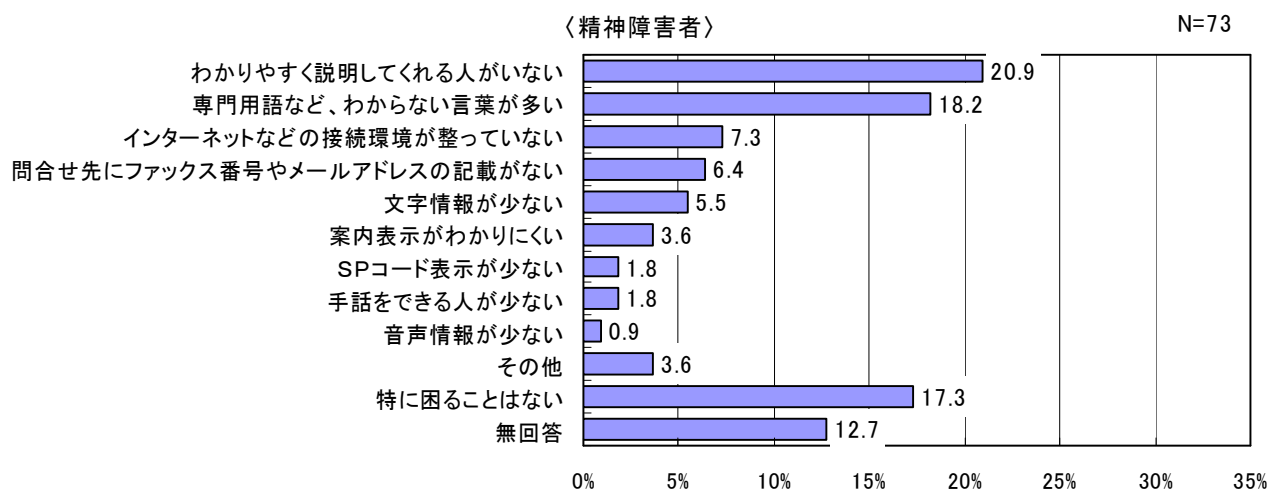
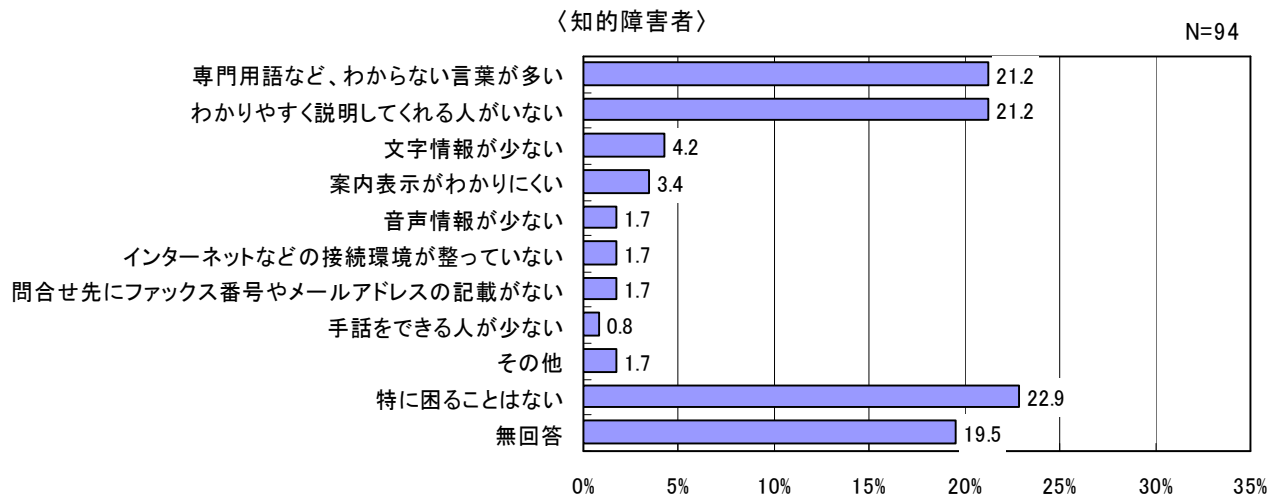
知的障害者は、「小・中学校での福祉教育の充実」が22.4%、「教育・福祉従事者の福祉教育の充実」が15.8%、「スポーツ・文化活動を通じた障害者と地域の人々との交流」が12.6%となっている。

精神障害者は、「スポーツ・文化活動を通じた障害者と地域の人々との交流」が17.4%、「障害者自身が積極的に社会参加をする」が13.9%、「パンフレット等の情報提供」と「教育・福祉従事者の福祉教育の充実」が各13.2%となっている。

12 情報の入手について ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 情報を入手する際に困っていること





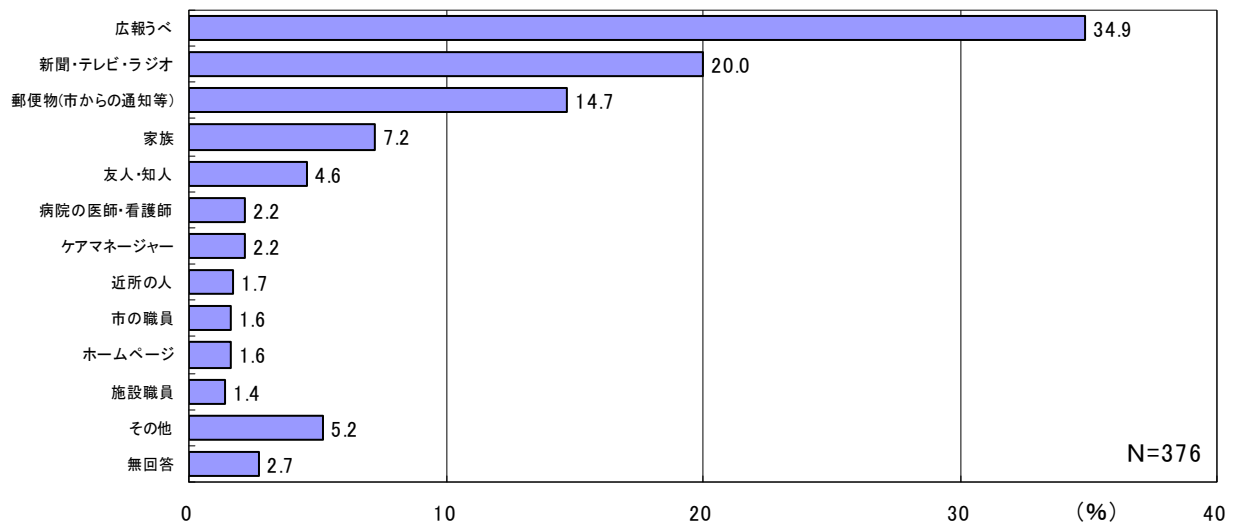
身体障害の方は、「専門用語など、わからない言葉が多い」(14.7%)、「わかりやすく説明してくれる人がいない」(13.7%)、「文字情報が少ない」(7.8%)となっている一方で、30.5%が「特に困ることはない」と回答している。

知的障害の方は、「専門用語など、わからない言葉が多い」(21.2%)、「わかりやすく説明してくれる人がいない」(21.2%)、「文字情報が少ない」(4.2%)となっている一方で、22.9%が「特に困ることはない」と回答している。

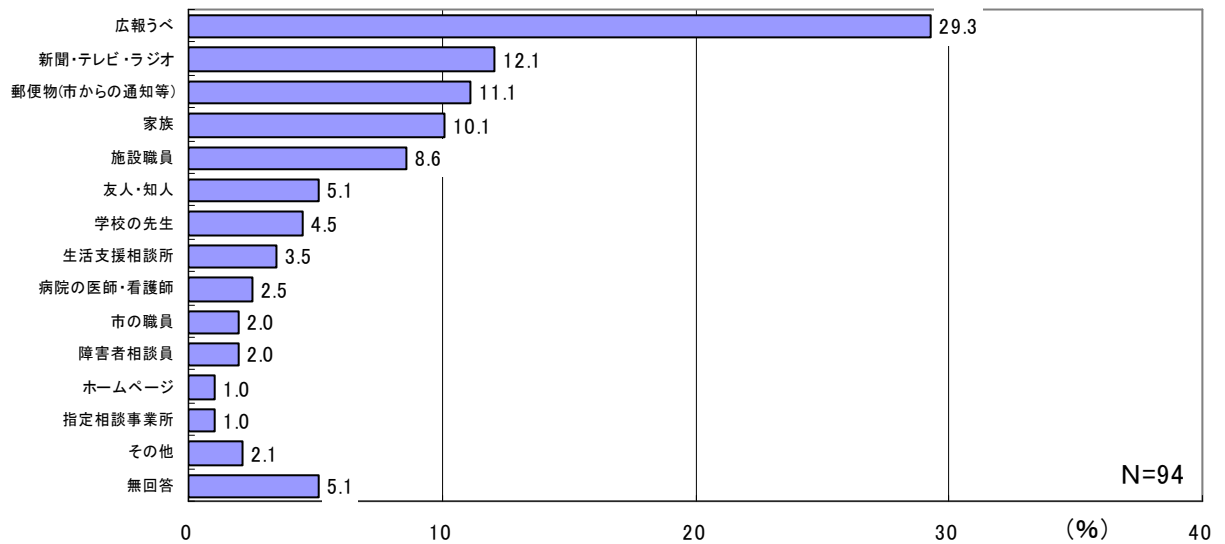
精神障害の方は、「わかりやすく説明してくれる人がいない」(20.9%)、「専門用語など、わからない言葉が多い」(18.2%)までは他の障害と同じ傾向だが、次に「インターネットなどの接続環境が整っていない」(7.3%)や「問い合わせ先の情報にファックス番号やメールアドレスの記載がない」(6.4%)の回答が続いている。

(2) 市政情報の入手方法について

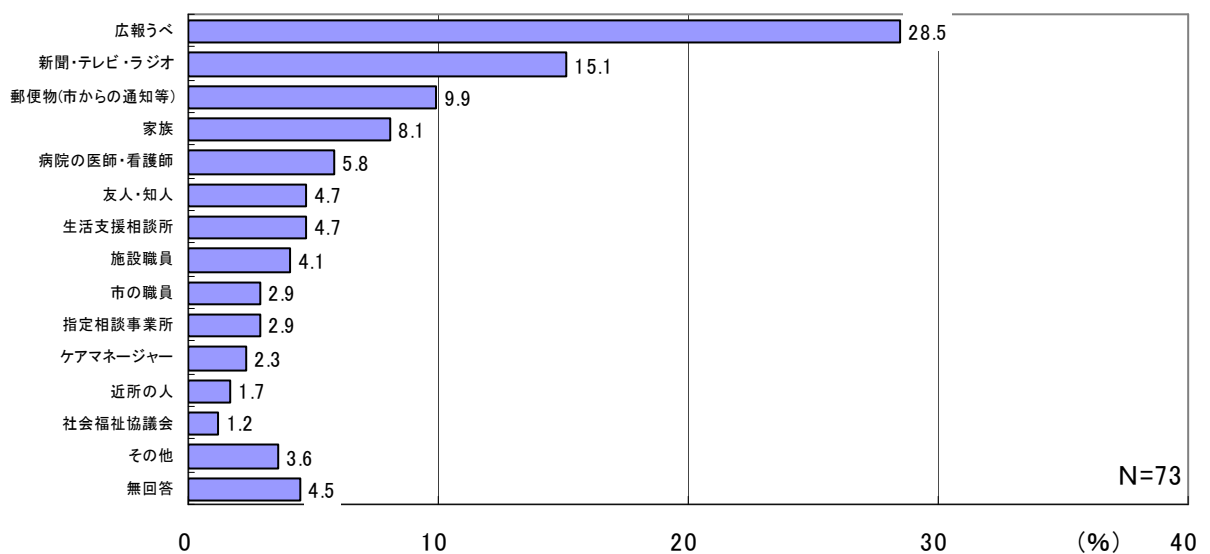
図36 市政情報の入手方法<身体障害者>



<知的障害者>



<精神障害者>



3障害とも約3割の人が「広報うべ」から情報を得ていると答えており、次に「新聞・テレビ・ラジオ」、「郵便物(市からの通知など)」、「家族」の順となっている。

(3) 市からの情報に望むこと

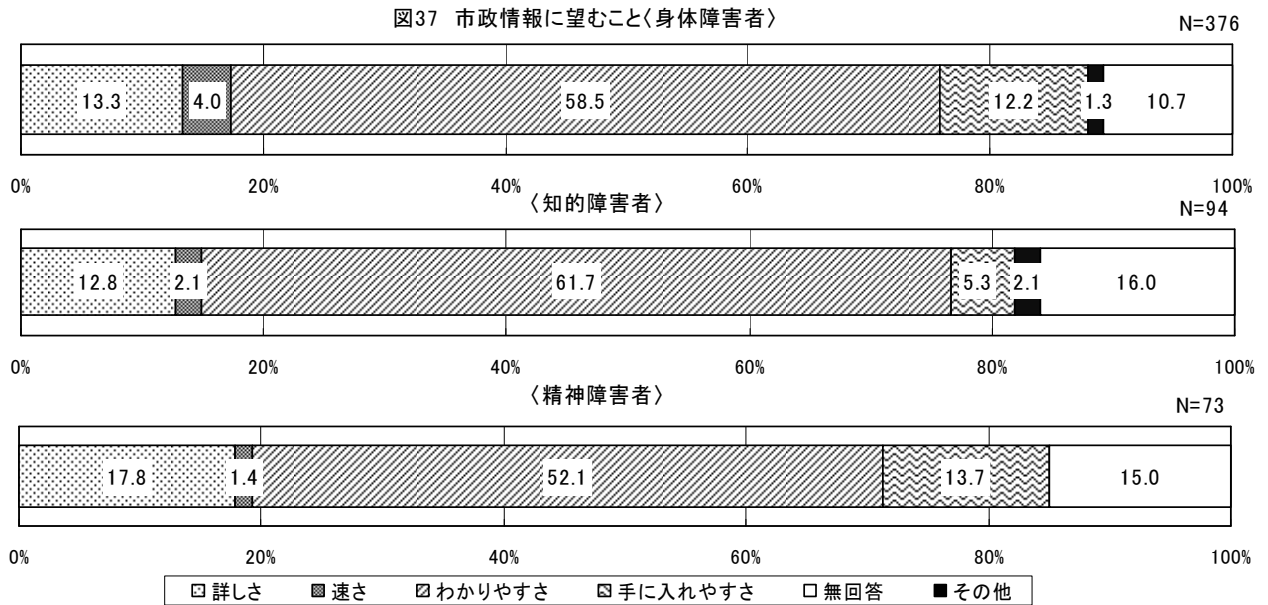
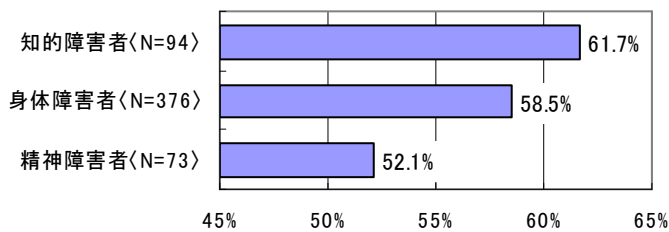
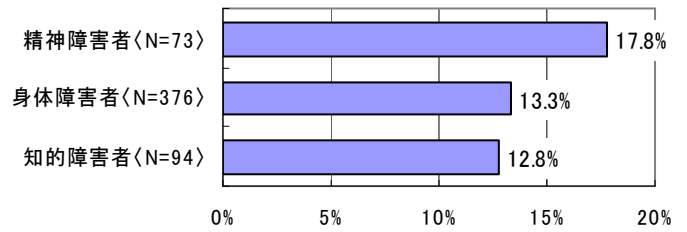


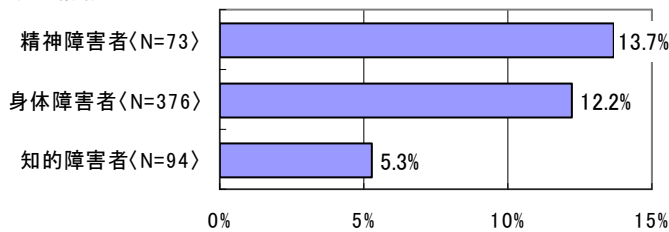
図37-1 市政情報に望むこと<わかりやすさ>



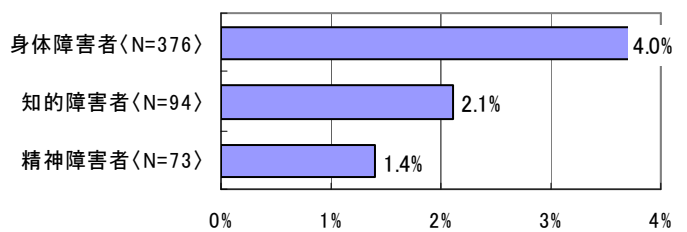
市政情報に望むこと<詳しさ>



市政情報に望むこと<手に入れやすさ>

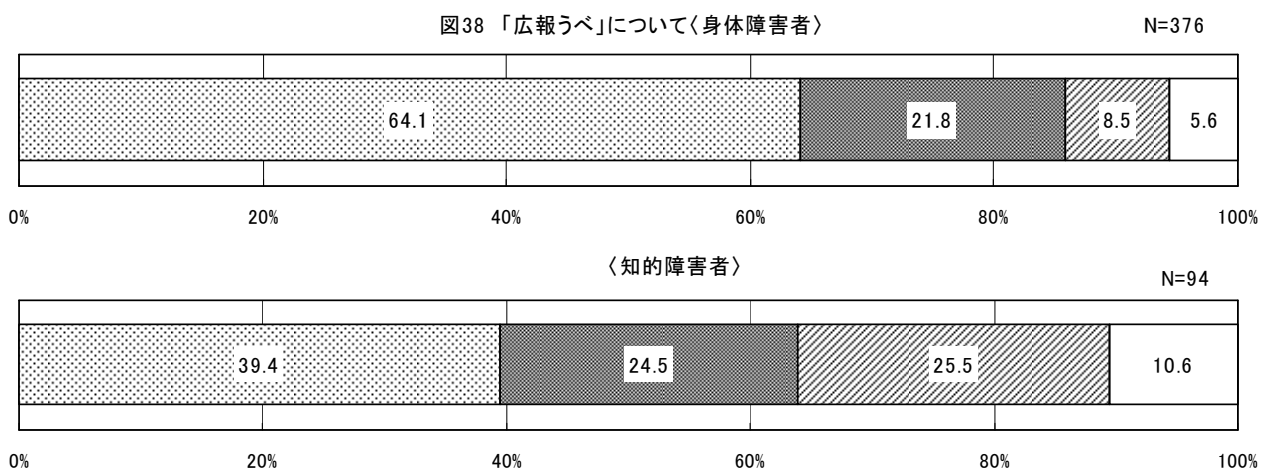


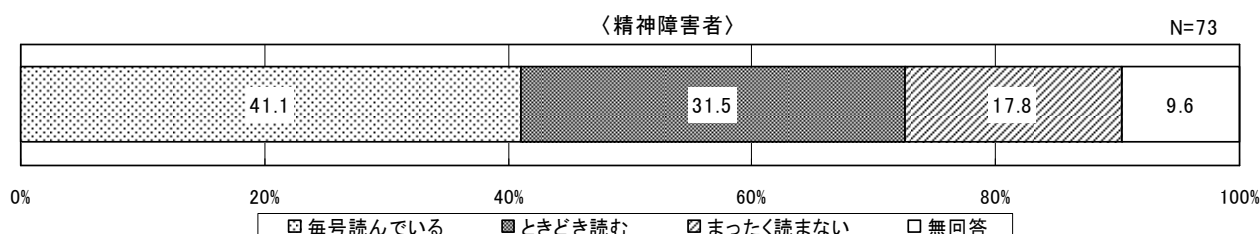
市政情報に望むこと<速さ>



3障害とも、約6割が「わかりやすさ」と答えており、次に「詳しさ」、「手に入れやすさ」の順となっている。

(4) 市広報について

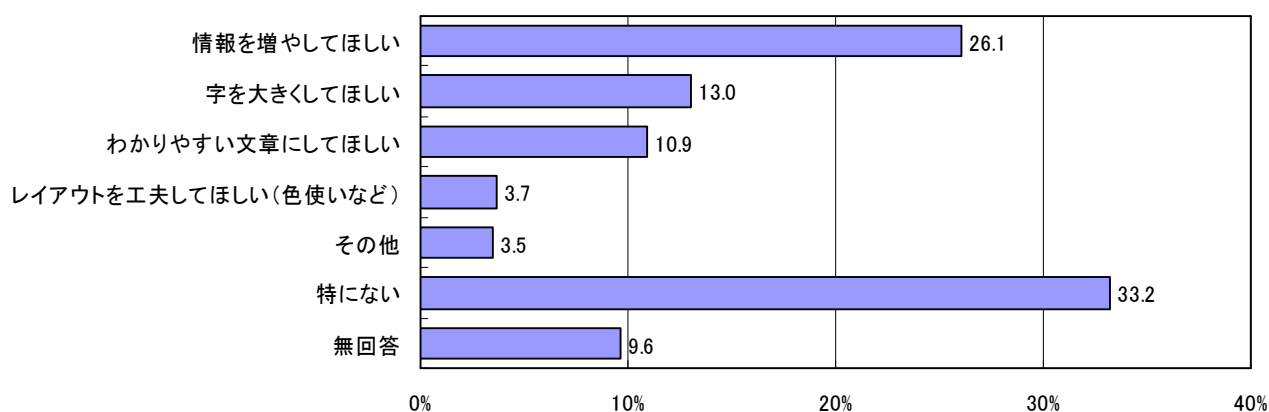




身体障害者は、「毎号読んでいる」(64.1%)と「ときどき読む」(21.8%)で85.9%を占めており、知的障害者も、「毎号読んでいる」(39.4%)と「ときどき読む」(24.5%)で63.9%、精神障害者も、「毎号読んでいる」(41.1%)と「ときどき読む」(31.5%)で72.6%と、障害者の情報入手媒体として「広報うべ」の割合は高い。

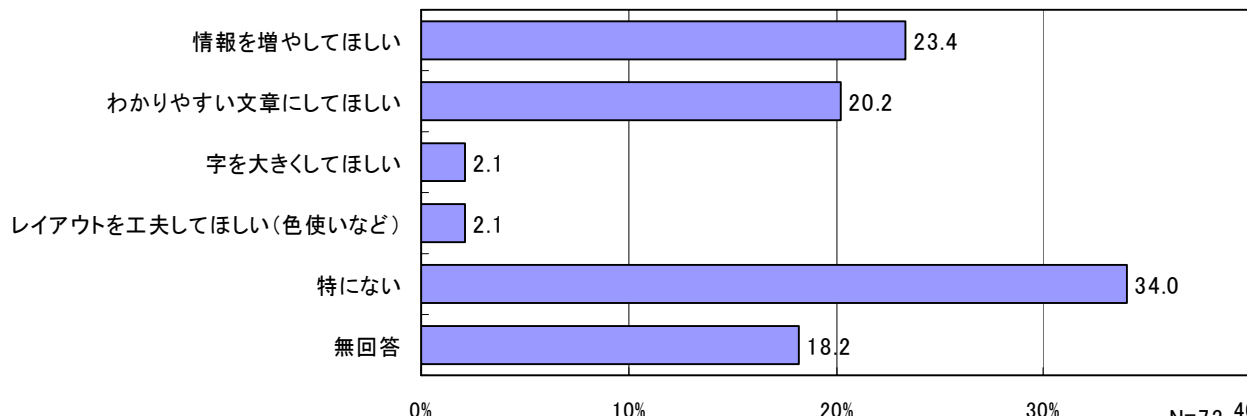
図39 市広報に望むこと〈身体障害者〉

N=376



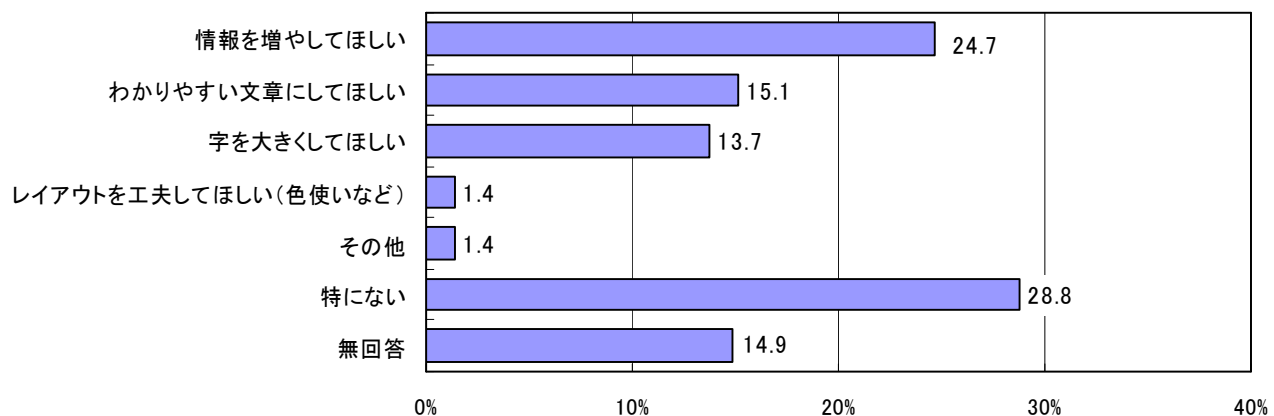
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73 40%



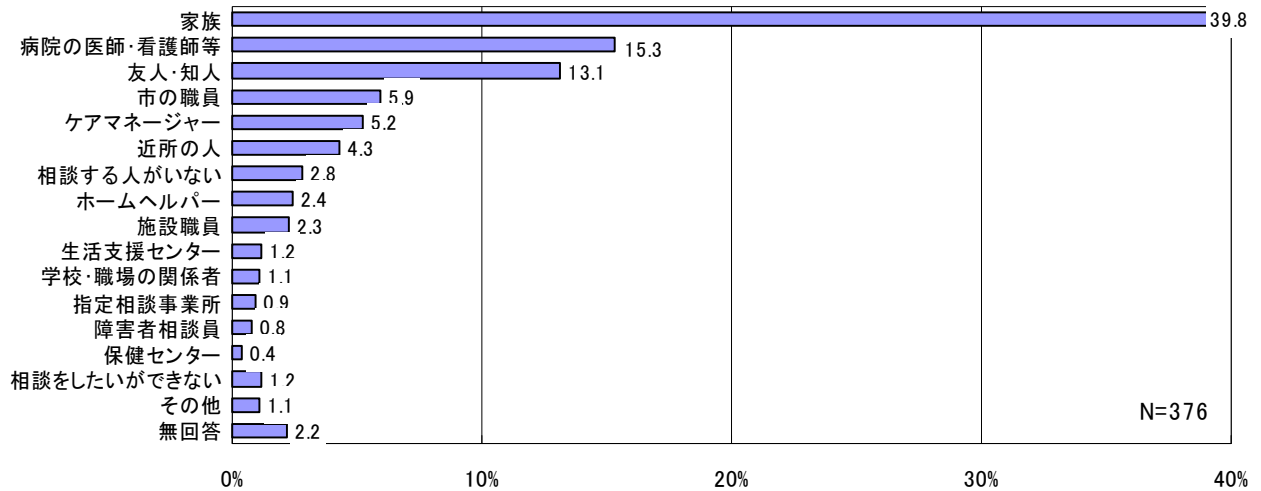
「広報うべ」に望むこととして、身体障害者は、「情報を増やしてほしい」が26.1%、「字を大きくしてほしい」が13.0%、「わかりやすい文章にしてほしい」が10.9%となっている。知的障害者は、「情報を増やしてほしい」が23.4%、「わかりやすい文章にほしい」が20.2%、「字を大きくしてほしい」・「レイアウトを工夫してほしい」が各2.1%となっている。精神障害者は、「情報を増やしてほしい」が24.7%、「わかりやすい文章にほしい」が15.1%、「字を大きくしてほしい」が13.7%となっている。

13 相談について

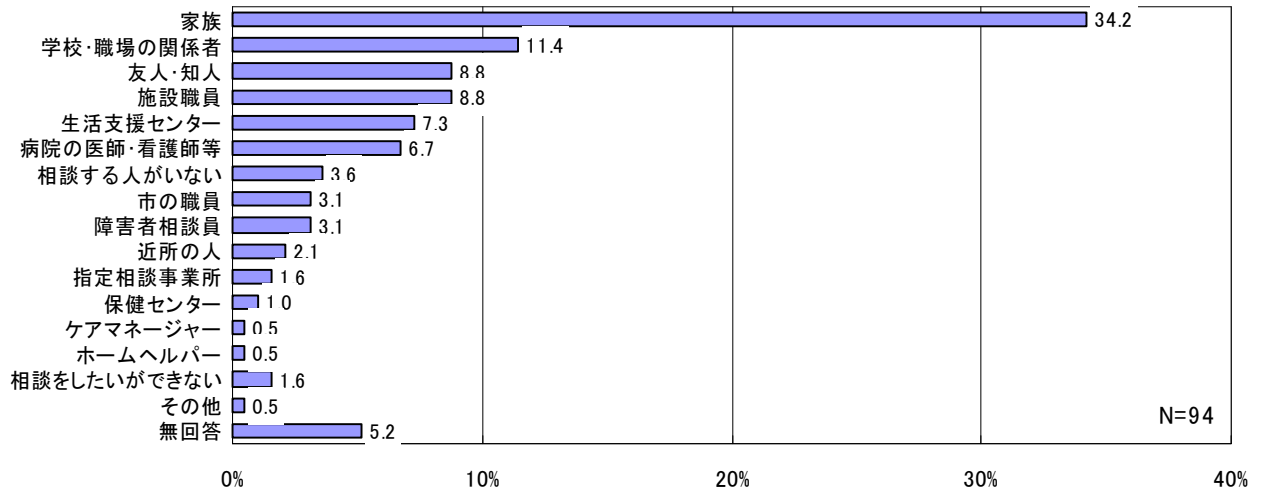
※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 困ったときや不安・悩みの相談相手として

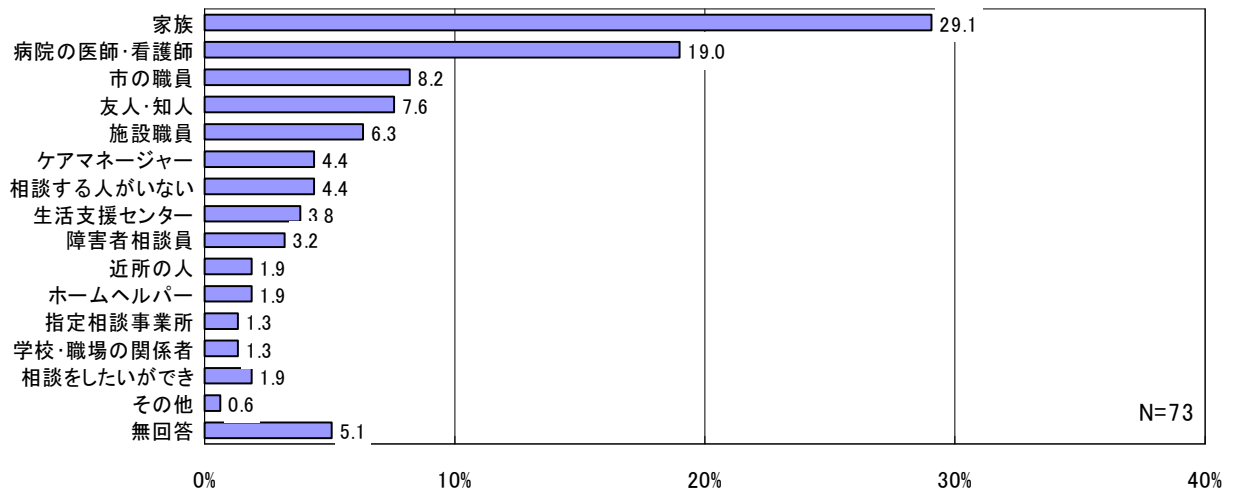
図40 困った時などの相談相手〈身体障害者〉



〈知的障害者〉



〈精神障害者〉



身体障害者は、「家族」が39.8%、「病院の医師・看護師等」が15.3%、「友人・知人」が13.1%となっている。

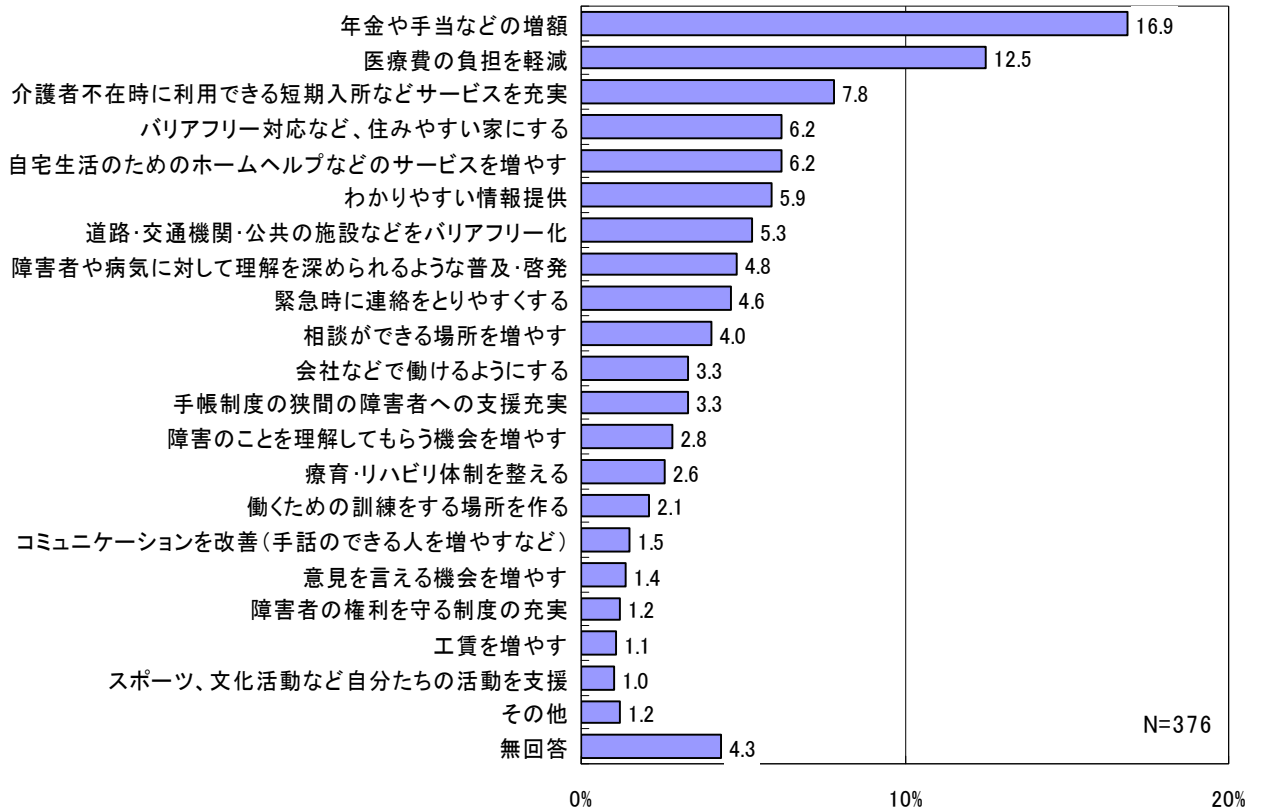
知的障害者は、「家族」が34.2%、「学校・職場の関係者」が11.4%、「友人・知人」・「施設職員」が各8.8%となっている。

精神障害者は、「家族」が29.1%、「病院の医師・看護師等」が19.0%、「市の職員」が8.2%となっている。

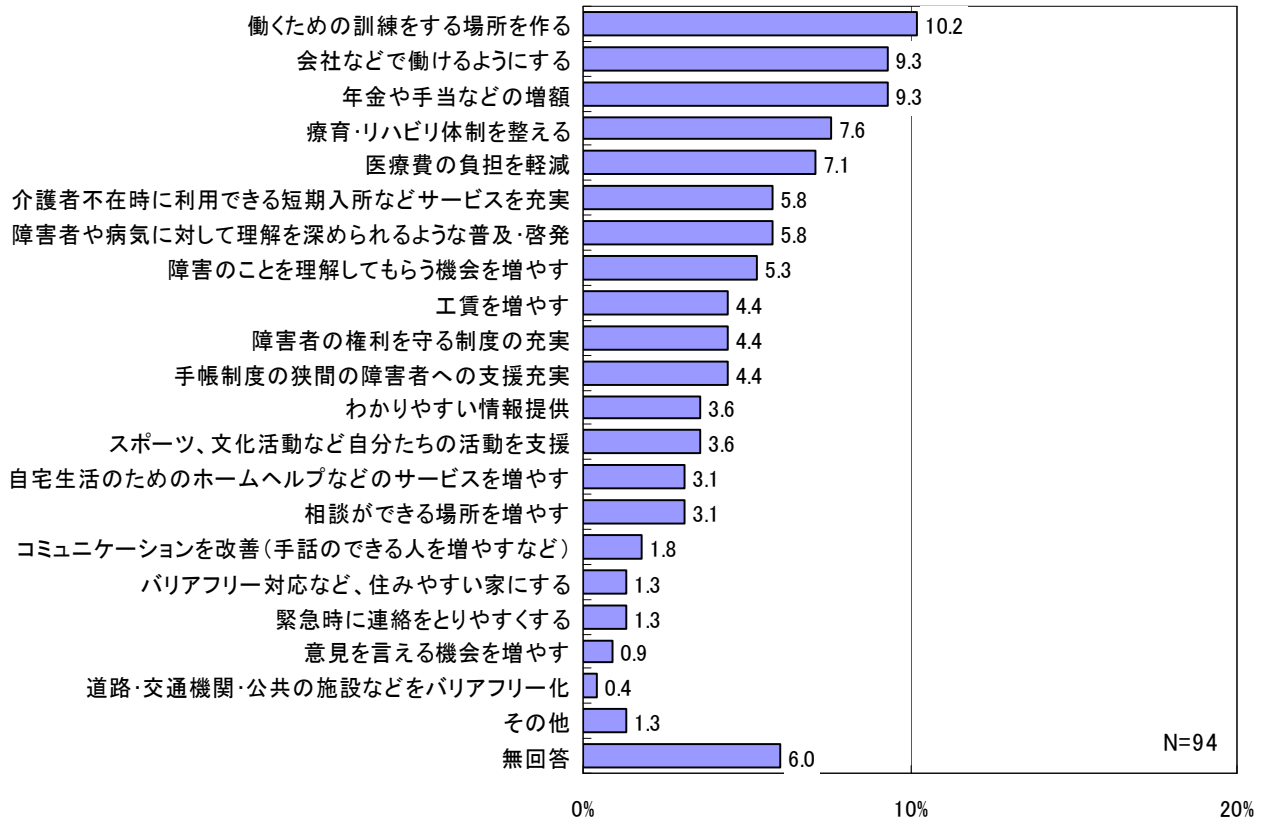
14 今後の障害者福祉について ※障害者（18歳以上）及び障害児（18歳未満）を対象とした設問

(1) 今後の障害者福祉の取り組みについて

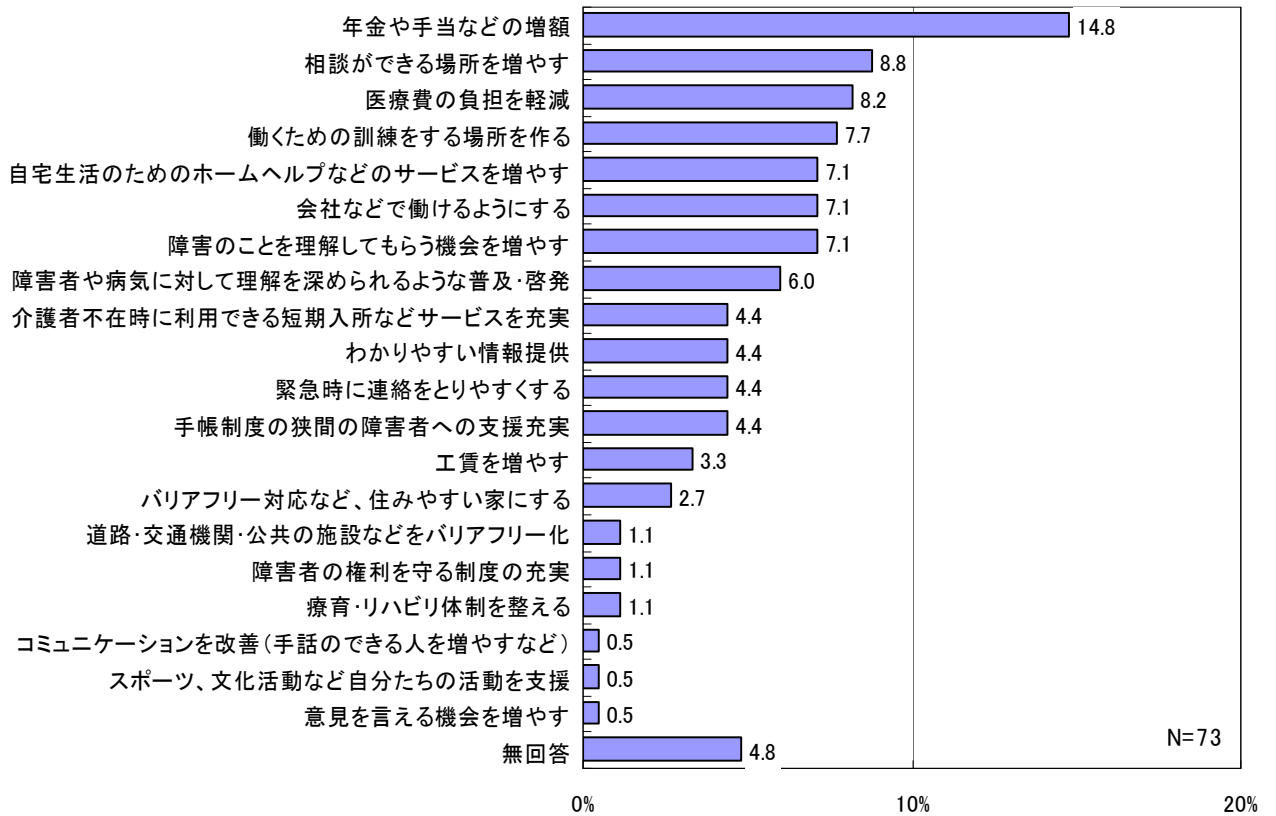
図41 今後の障害者福祉について〈身体障害者〉



〈知的障害者〉



〈精神障害者〉



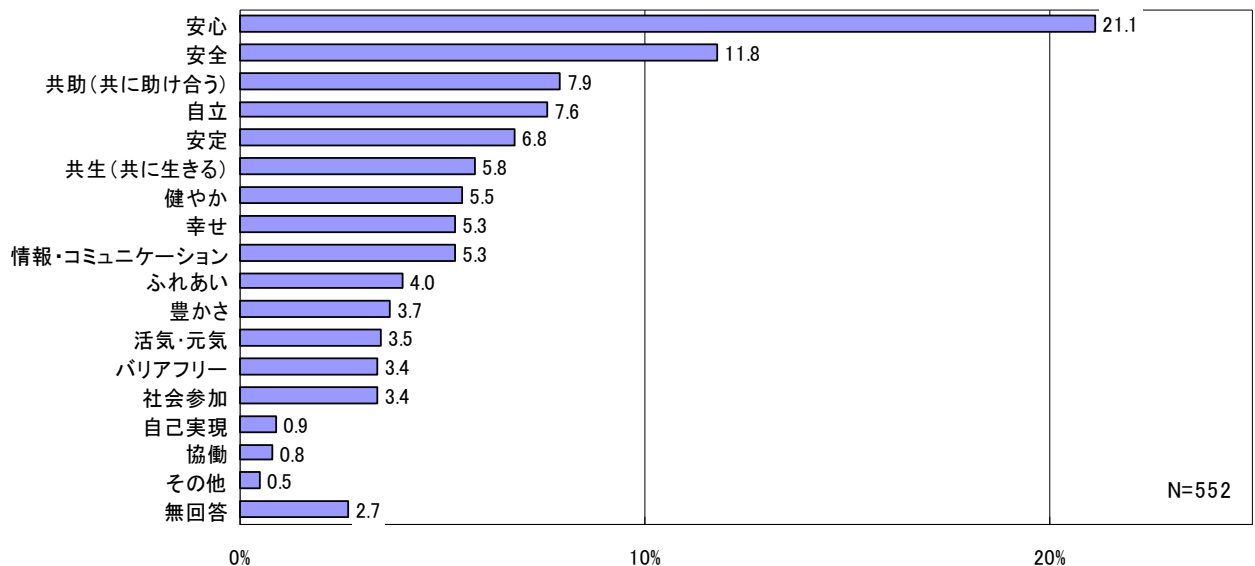
身体障害者は、「年金や手当などの金額を増やしてほしい」が 16.9%、「医療費の負担を軽くしてほしい」が 12.5%、「介護者が不在のときに利用できる短期入所などのサービスを充実してほしい」が 7.8%となっている。

知的障害者は、「働くための訓練をする場所を作ってほしい」が 10.2%、「会社などで働けるようにしてほしい」・「年金や手当などの金額を増やしてほしい」が各 9.3%となっている。

精神障害者は、「年金や手当などの金額を増やしてほしい」が 14.8%、「相談ができる場所を増やしてほしい」が 8.8%、「医療費の負担を軽くしてほしい」が 8.2%となっている。

(2) 障害者にとって、住みよいまちづくりを進めていく上での考え方

図42 障害のある方にとって住みよいまちづくりを進めていく上での考え方<全体集計>

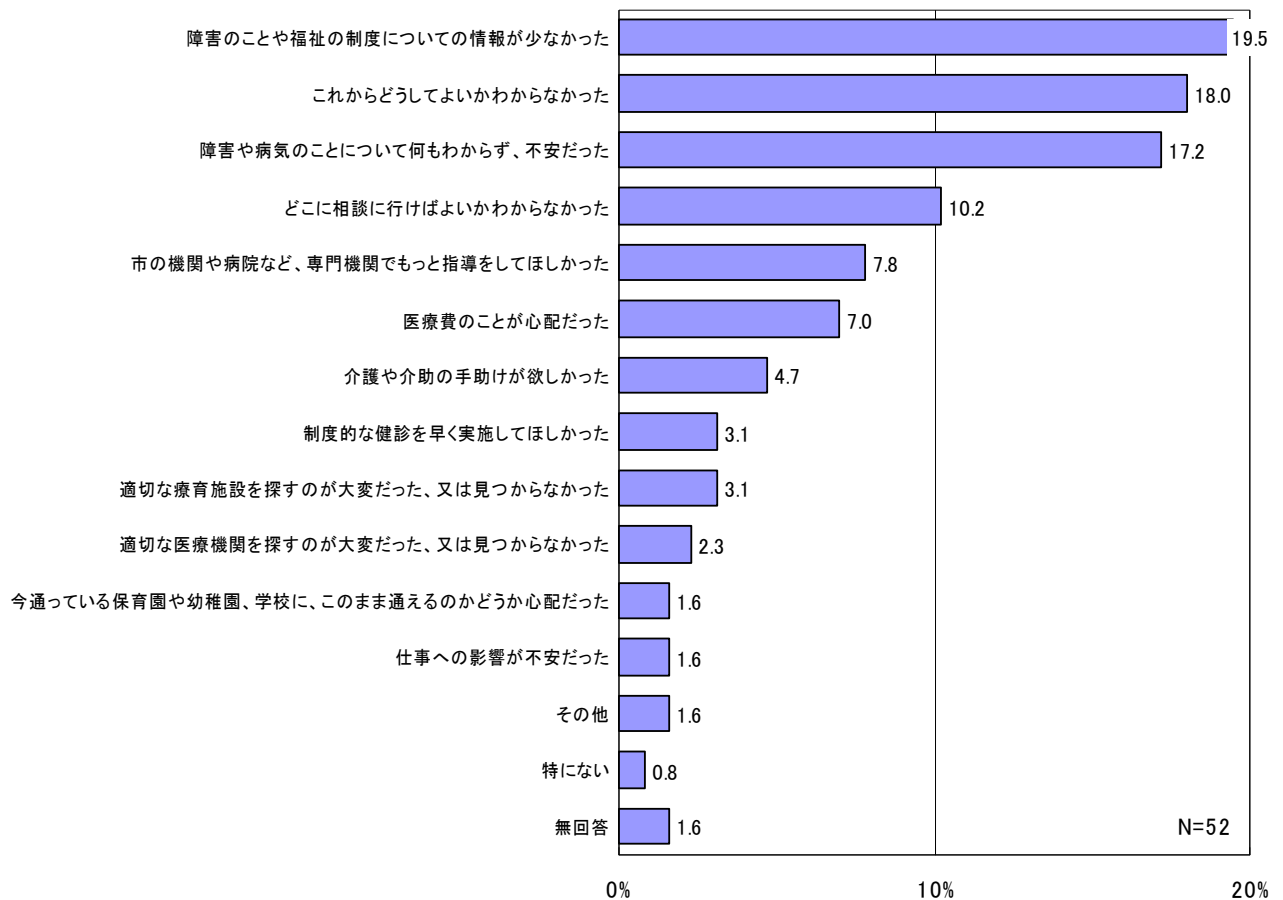


全体集計で、「安心」が 21.1%、次に「安全」が 11.8%、「共助」が 7.9%、「自立」が 7.6%、「安定」が 6.8%の順となっている。

15 障害児の保護者への質問

(1) 障害の判定を受けた頃の家族の気持ちについて

図43 障害の診断・判定を受けた頃の気持ちについて

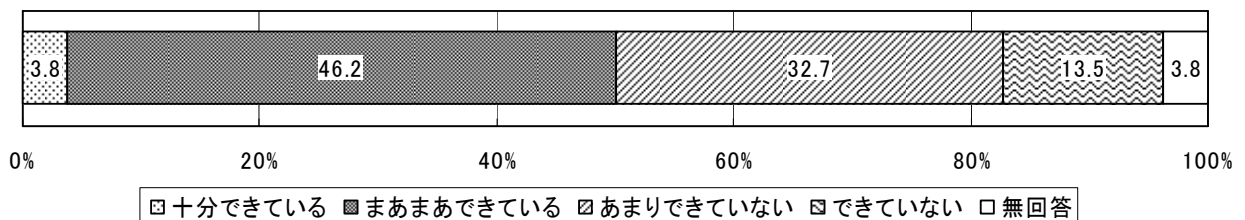


「障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった」が 19.5%、「これからどうしてよいかわからなかった」が 18.0%、「障害や病気のことについて何もわからず、不安だった」が 17.2%となっている。

(2) 障害の「早期発見」と「早い発達支援」の取り組みについて

図44 障害の「早期発見」と「早い発達支援」への取り組みについて

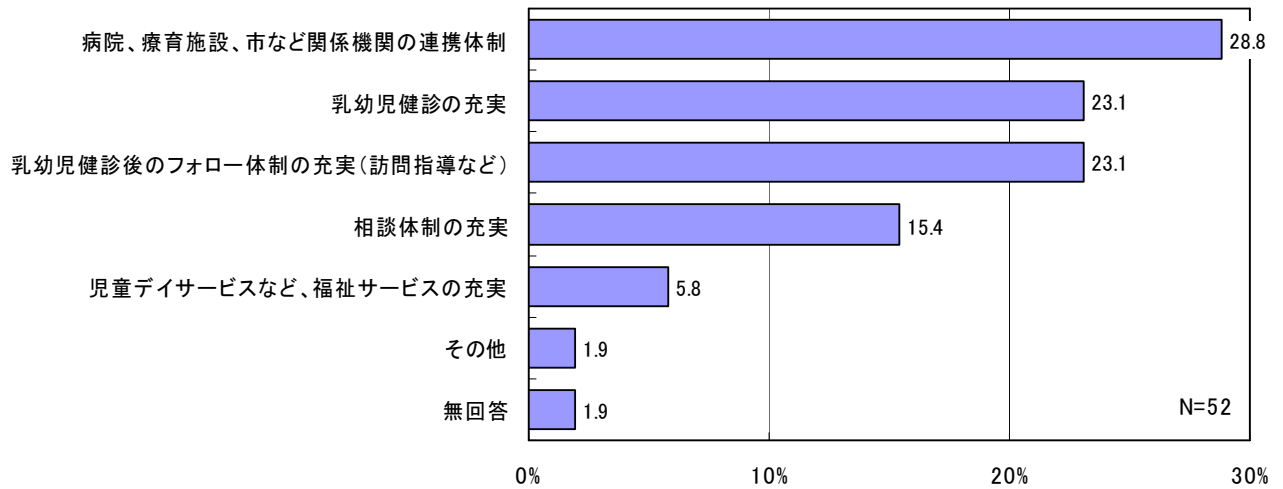
N=52



「十分できている」が 3.8%、「まあまあできている」が 46.2%であり、両方を合わせると 50.0%となっているが、一方で「あまりできていない」が 32.7%、「できていない」が 13.5%あり、46.2%の方については、期待を満たしていない状況となっている。

(3) 「早期発見」と「早い発達支援」のために必要なこと

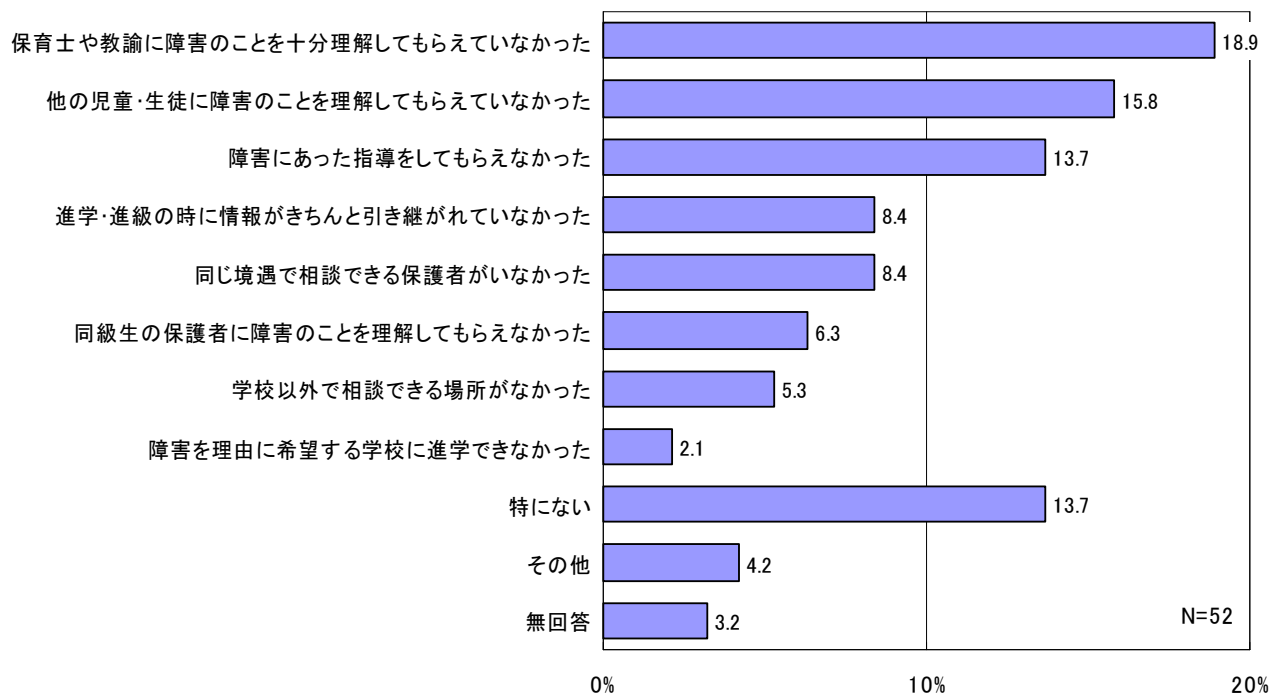
図45 「早い発見」と「早い発達支援」のために最も必要なこと



「病院、療育施設、市など関係機関の連携体制」が28.8%、「乳幼児健診の充実」と「乳幼児健診後のフォロー体制の充実(訪問指導など)」が各23.1%となっている。

(4) 保育や教育を受ける中で、今まで困ったこと

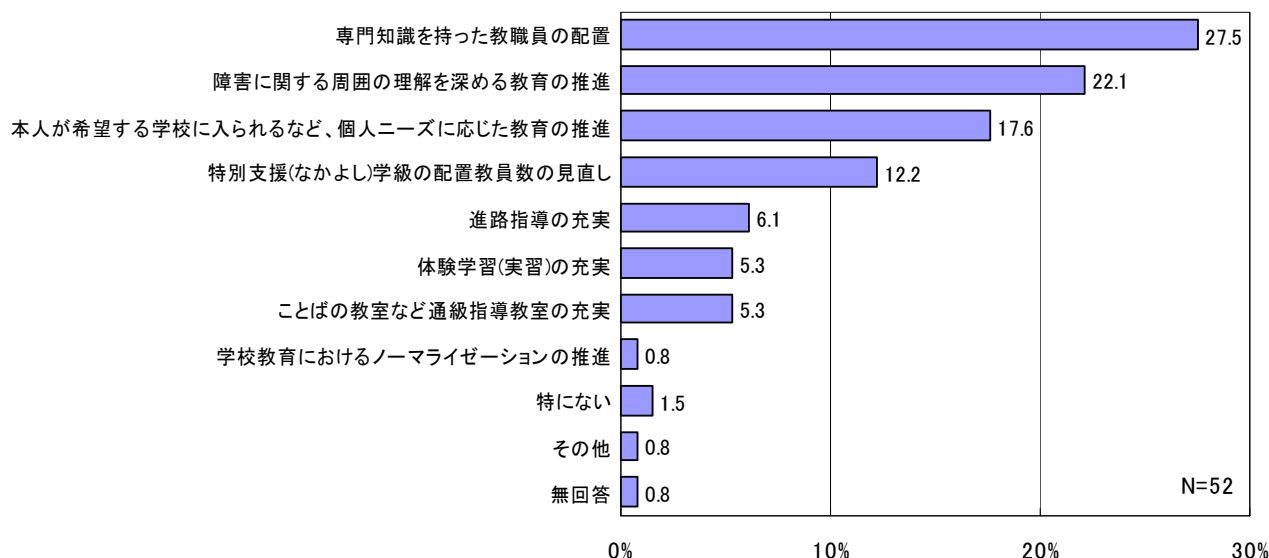
図46 保育や教育を受ける中で困ったことや不安に思ったこと



「保育士や教諭に障害のことを十分理解してもらえていなかった」が18.9%、「他の児童・生徒に障害のことを理解してもらえていなかった」が15.8%、「障害にあった指導をしてもらえなかった」が13.7%となっている。

(5) 教育に関する要望として

図47 教育に関する要望



「専門知識を持った教職員の配置」が 27.5%、「障害に関する周囲の理解を深める教育の推進」が 22.1%、「本人が希望する学校に入られるなど、個人ニーズに応じた教育の推進」が 17.6%となっている。

(6) お子さんの将来について

図48 お子さんの(将来の)仕事について

N=52

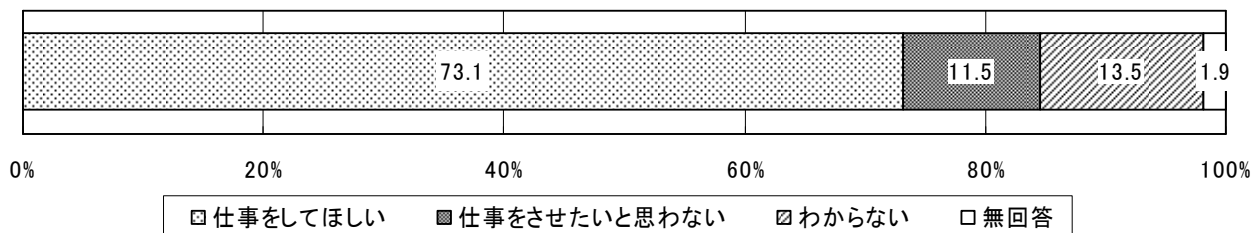
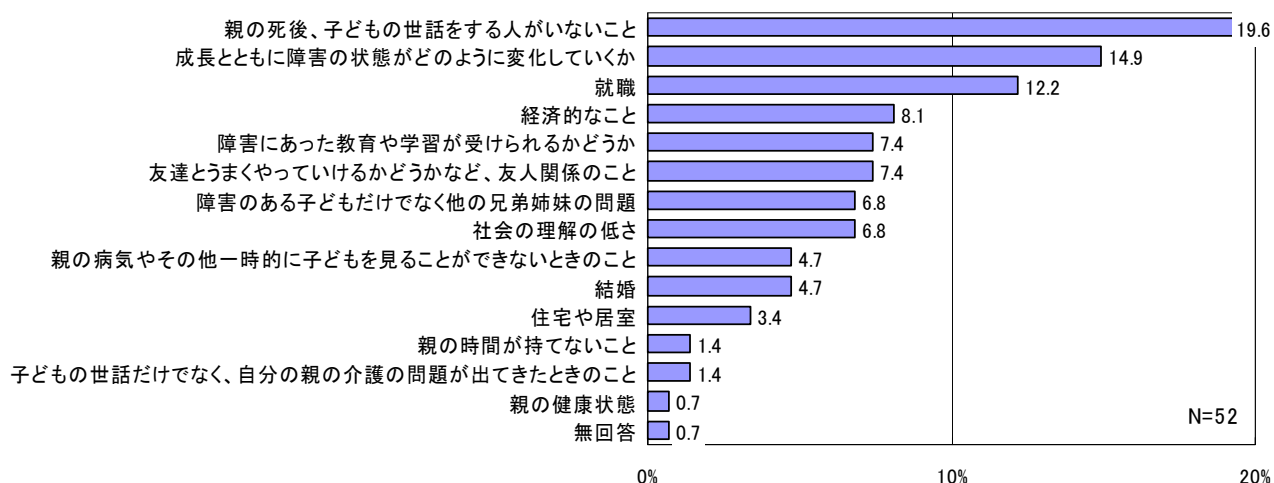


図49 お子さんを育てていく上での将来に対する不安について



73.1%が「仕事をしてほしい」と回答している一方で、11.5%が「仕事をさせたいと思わない」と回答しており、その理由として、「障害や病気が重くて仕事ができないと思うから」や「できる(合った)仕事がないと思うから」が挙げられている。

また、将来への不安として、「親の死後、子供の世話をする人がいないこと」が 19.6%、「成長とともに、障害の状態がどのように変化していくか」が 14.9%、「就職」が 12.2%となっている。

第3章 障害福祉に関する意見

1 啓発活動、情報提供・相談体制について

- 気軽に相談ができる窓口がほしい。前もって電話をかけて予約していける窓口があれば、自分がどのように病院にかかり、どのように生きていけるかを模索でき、心が軽くなって良いと思う。
- 障害者に対する嫌がらせの行為は多くなっている可能性がありますので、徹底的に協議をしてください。健常者が障害者に対して悪口を言ったり嫌がることをしたりするのは、許すわけにはいきません。障害者に明るく、楽しく支援していくことが大切なことである。
- 地域で普通に安心して暮らすこと。偏見や差別のない社会を皆でつくりたい。
- 私の周りには、目の見えない人や耳が遠い人がいるので、手話や点字が身近に感じるようにしてほしい。
- 聴覚障害なので、病院や色々な所で名前を呼ばれてもわからず、後回しになることが多い。
- 差別のない指導体制、安心して相談できる福祉の市になればと思う。
- 福祉サービス制度にどんなものがあるのかあまり知らない（自動車税の免除やバスの無料制度などは知っていますが）、教えてほしい。
- 金融機関（銀行、郵便会社等）において、障害者が身体障害者手帳を提示して本人であることが確認できたとき、障害者本人が金融業務に関する書類の代筆を依頼すれば、代筆できるようにしてほしい。
- 本当に困っている人と、そうでない人を見極めてほしい。
- 聴覚障害者なので、「言葉」を聞き取るのがすごく困難だが、会話をしているときに、ゆっくりと話をしてもらえなかったり、聞き返すと嫌な顔をされることが多い。難聴者ということが一目で分かる方法があると良いと思う。
- 障害者にもっと優しい国になってほしい。障害者だからこそできることをどんどん増やしてほしい。

2 教育・保育について

- 子どもの障害が、年をとることで目に見えて分かるようになり、幼い時から早く発見できればよかったと思う。どこかおかしいと感じつつ、どこに行き、誰に相談すればよいかわからなかった。今は割と相談体制も整備されており、良いと思います。人として、できるだけ普通の人たちと同じように、生活していけるようなサービスがこれからも充実してくれればと思う。
- （障害を持った）子どもが小さいうちに、もっといろいろな情報がほしかった。乳幼児の頃から、たくさんの情報を得ることができるようにしてほしい。
- 障害を持つ子どもの早期発見と親に対するフォロー（特に精神面）。特に母親は精神的、肉体的にも大変なので、父親に対する教育も行ってほしい。
- 障害の告知の問題を、医療、保健、教育の分野で連携して、よりよいシステムを作ってもらいたい。告知後のフォローの体制をしっかり作り、社会的な理解を深める活動も同時に推進して行けば、障害児を授かったことによる不安、孤立感、絶望感にさいなまれることなく、前向きに育児に取り組めると思う。
- 学校の先生方には障害はどのようなものがあるか、また、施設・子ども病棟を知らない方もあるようですので、勉強されたらよいと思う。（例：施設行事に生徒とボランティアに行くとか）
- 一人ひとりの障害の状態は多様で、一般的な知識や理解では、理解してもらいにくいので、共に活動し生活して、学校活動や地域活動に入っていける環境づくり、選択の幅を持ってほしい。特に学校、幼稚園など教育に関わる方にはふれあう・知ろう・理解しようという気持ちで接してほしい。

- 障害児、療育手帳 A の方のデイサービス受け入れを考えてほしい。家族で関わるのは限界がある。
- 障害児を受け入れる施設や学校が少なく、あっても家から通うとなると遠くへ送り迎えが大変。自閉症などのリハビリを行う病院が増えてくれると助かる。

3 就労について

- 障害を持っている人が働くということは本当に大変だと身にしみて感じる。障害者も病気を持っての障害者とそうでない障害者でまた違っており、見た目には分からない障害者もいて、その場合、理解を得ることはとても難しかったりします。
- 障害者の雇用として、身体障害者は事務系等の職種があるが、知的障害者は少なく、ますます雇用状況が厳しい状況である。もっと障害者が働ける場所を考えてほしい。障害を抱えた子を持つ親は死ぬまでその子の面倒を見ることとなるが、親が死んだ後、その子は一体どうやって生きていけばいいのか。
- 平成 14 年に失明し、職を失った。障害の程度に応じて、県や市の事業に優先的に仕事を与えてほしいと思う。

4 保健・医療について

- 病院での待ち時間が長い。
- 脊髄疾患による 4 級だが、4 級だと年金もないし、医療費も一般の人と同じ 3 割負担である。国の対応が遅く、一人で生きていくのに不安が残る。せめて医療費だけでも負担なくしていいようにしてほしい。
- 障害者手帳を持っていても、級が低いため、医療費や車の税金とかは変わらない。しかし、医療費は以前と比べて倍となり、生活が苦しい。働かないと医療費が払えない。そのため無理をし、また体を悪くする。もう少し楽になりたい。
- 年金から保険料や介護保険が差し引かれ、老後のため一生懸命掛けたのに、今では病院代その他のことで生活がいっぱいである。
- 重度の心身障害者の医療費の無料を続けてほしい。
- 福祉医療費受給者の一部負担金が無料になったことはありがたい。
- 家族への心のケアをお願いしたい。
- 障害児者の OT(作業療法士)、PT(理学療法士)など訓練を受ける環境を充実させてほしい。
- 主人の介護をしているが、介護者の私が死亡したら主人はどうなるのかと考え出すと夜が眠れない。子供に迷惑をかけるわけにもいかず、透析に今日は行きたくないからやめておこうとか、それができないことが悩みである。

5 福祉サービスについて

- 障害福祉サービス等を受けるに際して、手続きを簡単にし、短期間でできるようにお願いしたい。
- 補装具などの手続きを簡単にできるようにしてほしい。以前よりも手続きが面倒になったように感じる。
- 高次脳機能障害だが、短期入所などのサービスを受けることが難しく、今は週 2 日ほどデイサービスを利用している。受けられるサービスも限られており、障害にあったサービス機関を考えてほしい。
- 訪問介護の料金等の細かい内容が分からないので、利用料をわかりやすく知らせてほしい。
- 精神的に不安定だったが、施設で働くようになってからは、充実した日々を過ごすことができ、うれしく思う。いつかは社会復帰したいと考えているが、障害を持つ人々が自立できるような施設が増えることを希望する。
- 重複障害を持っている人が地域で過ごすのは難しいが、入所できる施設等もなく、親の亡き後がとても心配である。ケアホームやグループホームは重度では難しい。

- ガイドヘルパー制度の充実。利用できる場を増やしてほしい。
- 福祉サービス制度が良くなり、周りの方が良くなってくださいますが、それに甘えず、障害者も社会のために自分のできることをしたいと思う。
- タクシーチケットがあり助かるが、周りの年寄りで交通に不便を感じている人も多い。近くにバス停や駅がない。車に乗れなくなった人に、もっとタクシーなど安く、使いやすくすればよいと思う。
- 現在、福祉タクシー券については、3級まで交付されていますが、肢体不自由者（特に下肢不自由者）には、4級まで交付するようにしてほしい。
- 現在、施設入所している人達は、ここで一生過ごせると安心して入所した訳である。入所施設も新設する所はないようだが、やはり施設は必要だと思う。入所施設数を増やしてほしいし、古くなったところは、改修、建て替え等も考えてほしいと思う。
- 現在、支援学校へ通学している。学校のある時は良いが、夏休みや日曜、祝日に家族に用事があるとき、介護に困る。デイサービス施設を増やしてほしい。
- 障害福祉サービスを行っている施設などを、わかりやすく提示してほしい。
- 急に支援が必要なとき、利用できるデイサービスや日中一時等できる施設が少ない。バスの乗降訓練等していただけるサービス。
- 子どもの将来を考えると、不安なことばかりです。ですが、今は子どもの成長を見守りながら、少しずつでも社会参加する努力はしております。安心して利用できる児童デイサービスを、もっと増やしてほしい。
- 重度の知的障害のある人が生活できる、ケアホームまたは施設の整備・充実を望む。
- 全体的にサービスや制度は向上してきているように思う。
- 施設入所から、在宅での生活をしていく障害者にとって、楽しく快適に生活できるよう考えてほしい。
- 今受けているサービスや制度が、ずっと続くようにしてもらいたい。
- 障害者の希望をよく考えて行財政をしてほしい。リハビリが受けられる施設を多くしてほしい。
- 障害児、療育手帳 A の方のデイサービス受け入れを考えてほしい。家族で関わるのは限界がある。
- 精神障害者のショートステイを望んでいる。医療では、医者から当事者、家族への詳しい説明、薬、回復の見通し等。

6 生活環境について

- 駅から病院に行くバスが少ない。バスの時間を増やしてほしい。
- 視覚障害者は、慣れた場所でも方向が分からなくなる場合がある。1歩外出する怖さ、自然と家の中に閉じこもる。
- 自分が障害者になってわかった、1段の階段の高さ。
- スーパーや百貨店などの障害者用駐車場が少ない。
- 杖をついている人や老人等に優しいバスであってほしい。バス停で歩道まで4~50cmに停められると、高さもあり、とても危険である。
- 他市町の福祉関係者が一致してうらやましがるのは、市バスの無料利用（手帳提示）制度である。市の財政状況が厳しいことは承知しているが、今後とも継続してほしい。
- 障害者用駐車場を増やしてほしい。また、歩道の段差が多く、危険を感じたことがあるので、歩道の整備もお願いしたい。
- トイレは背もたれがなかったり（倒れるため必要）、人によっては背の高さが違ったりするので、足の踏み台が必要。
- 車椅子での活動なので、道路のバリアフリー整備を一番に希望する。

- 道路の段差を無くすとか、歩道を広くして車椅子などを通りやすいようにしてほしい。公園とか、市内のところどころに障害者の行けるようなトイレを増やしてほしい。
- 障害者用駐車場について、障害者は誰でも利用できるのがいいのですが、車イスを使用しているものにとって、駐車場の一区間の広さが、ドアを大きく開けて乗り降りするため広さが必要です。また、そうでない障害者の方もおられると思います。障害者でも利用状況が変わるので、広い駐車場は車イス用、近くてそれほど広くない駐車場は、乗り降りの比較的無理のない方用にできるといいなと思います。

7 文化・スポーツ・交流について

- 障害の程度や年齢に応じて社会参加ができるよう、また働けて少しでも収入が得られるように希望する。
- 障害者が気軽に行けるスポーツ施設（特にプール）を作してほしい。
- 障害者がスポーツ、文化活動等をしていないのは当たり前と思う。障害者が参加すると、予定通りに時間が進まないのが嫌がられる。
- 障害者が「社会参加」する場合、多くの健常者の中に入って責任を果たさなければならない。それを障害者グループで担当するのでなくて、一個人の障害者として健常者の手助けを必要に応じて受けながら全うする努力と、やりがいを体験することができる機会を工夫して実施すべきと思う。
- 余暇活動の選択ができるよう、障害者教室、レクレーション教室、ボッチャ教室、スポーツ教室。定期的に活動を行うことで、障害者の意欲、生きがいにつながると思う。
- 障害者の自主団体に入会して活動したいが、入会できるところがわからない。
- 精神障害だが、病状の軽い人が集まれる場所を提供してほしい。短時間働ける場所を作してほしい。カウンセラーと話したい。若い友達がほしい。

8 その他

- 親も子も、年を取ると親亡き後のことを考えます。子ども一人が残ったとき、どんな生活が待っているかいつも考える。一人では生きていけないのでとても心配である。
- 福祉関係のスタッフは、特に笑顔であってほしい。元気で明るく笑顔で、利用者に接してほしい。
- 発達障害児は、実際、親子共に気苦労が絶えないけれど、手帳も何も発行されず、何のサービスも受けられない方が多いのが現状。発達障害児の手帳もしくはサービスを充実してほしい。
- 障害者も甘えず自立して、できることを探してやり、やれることはやるべきである。自分でやれないことは行政の力を借り、自分自身きびしく生きていきたい。
- 目の前をタクシーが通っても自分の力では止められない。「タクシーに乗ります」と何か目印に布みたいな物があれば良いなと思う。